

ぶんかざいまるちなび

文化財知ナビ

No.35

このニュースレターは、「文化財に親しむ機会の提供に関する事業」の一つとして、身近な文化財情報をはじめ、文化財を活用した事業などの紹介を行っています。ぜひ学校教育や生涯学習の場で広くご活用ください。

様似町「様似山道」・えりも町「猿留山道」 が国指定史跡になりました！！

平成30年2月13日付けで、様似町の「様似山道」、えりも町の「猿留山道」が国の史跡に指定されました！！



様似町様似山道



えりも町猿留山道

◆史跡とは？

貝塚・古墳・城跡・お寺や神社などで、日本の歴史の正しい理解のために欠くことができず、学問的にも価値の高いものです。山道は交通に関係する史跡にあたります。

北海道の国指定史跡はこの2つが53・54番目ですが、道の指定は北海道で初めてです。

◆どこにあるの？

様似山道：様似郡様似町字冬島～字幌満、指定面積約4,400㎡、長さ約4.5km。

猿留山道：幌泉郡えりも町字庶野～字目黒、指定面積約5,700㎡、長さ約6.3km。

◆どんな道なの？

18世紀後半にロシアの船が北海道周辺に現れるようになり、これに対して警備を強化するため、天候が悪い時に通ることが難しくなるそれまでの海沿いの道にかわるものとして、寛政11年（1799）に江戸幕府が初めて作った道路です。

◆道を歩いていたの？

道幅は90 cmほどですが、歩いただけでなく、馬や籠に乗っていたことも記録からわかっています。

◆冬も道を通ったの？

江戸時代の1月に厚岸町にある国泰寺の僧侶が籠に乗って通過した記録があり、冬も通行できたことがわかります。

◆どんな人が道を通ったの？

山道ができた次の年の寛政12年(1800年)には伊能忠敬が測量調査で通過しています。ほかに、江戸時代には北海道の名付け親である松浦武四郎が、明治時代には榎本武揚や十勝開拓の祖といわれる依田勉三が通っています。

◆道以外に何か残っているの？

様似山道の途中には、明治時代の旅館である原田宿跡があります。原田宿跡の発掘調査では、旅館で使われたお茶をいれる急須、お酒をいれる徳利、料理に使う鉄鍋や江戸時代のお金である寛永通宝・天保通宝も出土しています。

猿留山道の途中にある沼見峠には、旅の安全と地域の繁栄を願うため、江戸時代に作られた石碑が2つあります。この峠から見える、ハート形で有名な豊似湖は神様が住んでいると考えられていたようで、「通行中に豊似湖が見えている間は話をしてはいけない」という言い伝えもありました。

◆今でも歩くことができるの？

5月上旬から11月頃まで歩くことができます。様似町・えりも町ではみんなで歩く会も開催していますので、それぞれの教育委員会にお問い合わせください。

◆お問い合わせ先

• 様似町様似郷土館 電話：0146-36-3335 休館日：毎週月曜日

<http://www.samani.jp/kyouiku/index4.html>

• えりも町郷土資料館 電話：0146-62-2410 休館日：毎週火曜日

<http://www.town.erimo.lg.jp/horoizumi/>

様似山道原田宿跡から出土した江戸時代のお金と急須



猿留山道途中にある江戸時代の石碑

※画像は全て様似町教育委員会・えりも町教育委員会提供

文化財ニュースレター 文化財まる知ナビ No.35

発行 平成30年2月13日

【お問い合わせはこちらへ】

編集・連絡先

電話 011-231-4111 (内線) 35-620

北海道教育庁生涯学習推進局文化財・博物館課

メール kyoiku.bunka2@pref.hokkaido.lg.jp